



# 神奈川県東ロータリークラブ

## KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2017-2018年度 第28週報 No. 2011 2018年(平成30年) 2月16日 第2011回 例会記録 2月23日発行

### 本日〈2月23日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「手に手つないで」
- ◆ 献立 中華御膳
- ◆ 卓話 「人と人との出会いに感謝」  
司会業 玉谷 悦子 様  
(紹介者 河野 明光 会員)

<< 本日のBGM >>  
アルバム「LONDON BAROQUE」より



PHOTO クラブ会報委員会

**司 会** 金森 欣一 副幹事

**結婚記念日祝** 江森 国一 会員 (2月17日)

**点 鐘** 矢野 修二 会長

**斉 唱**  
「それでこそロータリー」「友達になろう」  
ソングリーダー：加野 亮一 会員



**四つのテスト** 赤堀 和人 職業奉仕委員長  
(第1例会のみ)



2017-2018年度 RI 会長 イアン H.S. ライズリー



ロータリー：  
変化をもたらす

第2590地区 ガバナー 湯川 孝則

会 長	矢野 修二	会 計	白井 康夫
会長エレクト	天野 公史	副 会 計	飯田 泰之
副 会 長	田中 龍太郎	S A A	茂木 知子
副 会 長	河野 明光	副 S A A	加藤 仁昭
幹 事	白鳥 厚夫	副 S A A	森 永 健
副 幹 事	金森 欣一	クラブ会報	長井 章

**例会日** 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)  
**例会場** ホテルキャメロットジャパン  
**URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>  
**E-mail** [kerc@beach.ocn.ne.jp](mailto:kerc@beach.ocn.ne.jp)

**事務局** ホテルキャメロットジャパン内  
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3  
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555  
**創立記念日** 昭和51年5月29日

## 会長報告

矢野 修二 会長

- ・地区より、2020-21年度のガバナーノミニー・デジグネート告知・確定宣言が来ております。当地区指名委員会は、2020-21年度ガバナーノミニー・デジグネート候補者として吉田隆男氏を指名。他に候補者の推薦がないので、告知と同時に2月13日付にて吉田氏が2020-21年度ガバナーノミニー・デジグネートに確定したことを宣言されました。
- ・2月度定例理事会報告

## 幹事報告

白鳥 厚夫 幹事

- ・本日、例会終了後にクラブ協議会を開催致します。  
場所 5F ジュビリーⅢ
- ・先週に引き続き、2018-19年度のR手帳の申込書を回覧致しますので、申し込みを希望される方は名前を明記願います。なお、費用はクラブの負担となります。
- ・日本時間2月7日未明に台湾東部で発生したマグニチュード6.4の地震による被災地への義援金を募りたいと思います。募金箱を回覧致しますので、皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

## 出席報告

山田 正憲 出席委員長

会員総数	52名	(34+18)名	
出席会員数	40名	(27+13)名	
出席率	85.11%		
ゲスト	0名	ビジター	0名
前回補正後	89.80%	前々回補正後	82.22%

## スマイルボックス

茂木 知子 SAA

- 江森国一君 結婚記念日のお祝い、ありがとうございます。
- 矢野修二君 ①山本芳弘さん、本日の卓話、よろしくお願致します。②吉田隆男さん、ガバナーノミニー・デジグネート、おめでとうございます。2590地区の為に頑張って下さい。
- 吉田隆男君 山本会員、卓話楽しみにしています。
- 山本 登君 茂木さんの為に出します。
- 白鳥厚夫君 ①山本住職、本日の卓話、大変楽しみです。②吉田さん、ガバナーノミニーおめでとうございます。一緒に頑張りましょう。
- 山本芳弘君 本日、卓話を担当します。よろしくお願致します。
- 加野亮一君 RCチャリティマラソンお疲れ様でした。走ったー！
- 横山博行君 先日のチャリティマラソンにご参加の皆様、お疲れ様でした。白鳥総監督の厳しい指揮のお蔭で足のつる一歩手前まで全力で走ることが出来ました。

金曜会（勉強会） 金曜会後の宴会でのお釣りをニコニコへ入れさせていただきます。皆さん、お疲れ様でした。

茂木知子さん スマイルが目標額に達するようにお願い致します。頑張らないと・・・。

2月16日	10件	21,184円
本年度累計		1,241,072円

## 「菩提寺について」

山本 芳弘 会員



菩提寺とは、皆さんが檀家登録をしているお寺を意味します。江戸時代に施行された檀家制度の名残に因ります。明治以前は菩提寺が役所の役割を行っており、通行手形などの発行をしておりました、いまの戸籍にかわる名簿を有していたわけでした。では、「菩提」とはどういう意味でしょうか？仏教の仏は幾つかに分類されております。

如来・・・完全無欠の仏 悟りの境地に至っており  
極楽浄土を持つ

菩薩・・・仏道修行に励む者 仏道を歩む者

明王・・・天部の仏

菩薩の求道する心を「菩提心」と言います。従って菩提とは仏道を志す事を意味します。

寺院は仏道を実践する修行道場となるわけです。よく寺を「当山」という場合がありますが、古来より修行場は神聖な山とされる事から、お寺を山に見立てます。どこの寺院も正式な名称には山号・寺号・院号があります。わたしの寺は、密厳山不動寺 遍照院が正式な名称となります。

このように寺は生死に関係なく仏道実践の場であり、菩提心を育むことが大切となります。住職をはじめ僧侶は、この修行実践の道筋を説かなければなりません。

宗派によっても異なりますが、葬儀の際は導師として住職が出仕しますが、剃髪・得度して故人を仏弟子にして、戒律を授け戒名をつけ、引導を渡します。これは法の上での師弟関係が結ばれることとなります。仏の系譜を継承する訳です。

よって、菩提寺の住職は檀家さんであるかぎり、その人の師匠となります。また寺院は広く人々の拠り所となっています。檀信徒さんをはじめ、地域の人達の文化活動に貢献する場所があります。皆さんの共有財産ですので、大勢の方々に支えて頂かなければなりません。

本日の卓話は昨年夏に発行いたしました「菩提樹」（菩提寺・仏事早わかり帳）を参考に進めてまいります。

## 第2回クラブ協議会開催

2月16日（金）例会終了後、第2回クラブ協議会が開催され、各委員会より現在までの進捗状況と今後の予定について、報告がなされました。



## ロータリーニュース

### 「野獣鉄道」が運ぶ避難民たち

メキシコ避難民の窮状をロータリー奨学生がレポート

メキシコ南部では、避けられないことが2つあります。

一つは、砂埃。砂漠の岩が粉になり、あらゆる隙間に入り込みます。膝の裏やまぶたのしわにも埃がつかます。砂埃で咳をしながら眠りにつき、朝起きるとベッドシートの上に埃がたまっています。

二つ目は、暴力。「野獣（Beast）」と呼ばれる貨物鉄道で、私はその両方を目にしました。これまで半世紀以上、貧困、数十年にわたる内戦、そして最近では、残虐なギャングから逃れて中米諸国から何百万人もが、メキシコ国内を南から北へと移動します。避難民たちは「野獣鉄道」に飛び乗り、遠くへと逃れようとします。

2014年7月、メキシコ入国管理当局は、南の国境計画を発表。しかしそれは、避難民が「野獣鉄道」を使えなくするものでした。メキシコのエンリケ・ペニャ・ニエト大統領は、この

計画により新しい経済地帯をつくり、歴史的に不安定なこの国の南部国境を強化することによって避難民の人権を保護する、と述べました。しかし現実には、それとは反対に、暴力を受け、誘拐され、殺害される避難民の数が急増。臓器売買のブラックマーケットの犠牲になる人もいます。

2015年の初め、私は、ロータリーのグローバル補助金奨学生としての研究を終え、社会人類学の修士号を取得しました。ここで学んだのは、メキシコの貿易と開発への取り組みが、人びとの生活を安全にするどころか、より危険にしていることでした。問題の原因を探り、研究で得た知識を生かすために、私は南メキシコに赴きました。

メキシコ南部は、自給自足農業を営む貧しく小さな農村集落がほとんどです。とはいえ、私はなんだか故郷に帰ったような気分でした。ジョージア州の田舎町で育った私は、ノースカロライナ州の丘陵地帯でキャベツや果物、クリスマスツリーを栽培する農民たちに英語を教えていました。避難民について興味を持つようになったのも、その経験がきっかけです。避難民のほとんどは、メキシコ南部出身者で、そこで麻薬や人身売買による暴力の話聞き、この地域に関心を持ったのです。

南の国境計画が人びとの生活にどんな影響を与えているかを理解するため、私は避難民シェルターにしばらく滞在することになりました。そこは、ホームレスの保護施設とも、難民キャンプとも異なるものでした。水道や電気がないケースがほとんどですが、北部に向かう前に温かい食事と寝る場所は確保できます。

シェルターでの生活は、私にとって衝撃でした。病人やけが人が毎日のように到着し、重度の脱水症状が大きな問題となっています。文字通り、足の裏の皮がむけるまで歩いてきた人もいます。私がいたシェルターにギャングがやってきて誰かを誘拐しようとし、シェルターの責任者がこれを制止したこともありました。

私が到着した頃、「野獣鉄道」の路線沿いにあるシェルターの避難者数は、一晩あたり400人から、100人弱に減っていました。シェルター責任者によると、中米諸国からメキシコに逃れる人は年間約40万人で、その数は減少していません。シェルター利用者の利用が減ったのは、出入国管理担当者が「野獣鉄道」に近寄る人を無差別に拘束するようになり、怖くてシェルターに近寄れなくなったからです。安全だったシェルターが、立入禁止区域に変わってしまったのです。「これは、シリア問題にも匹敵する人道的危機だが、誰もこの問題を取り上げていない」と責任者の一人が口にしました。

私はシェルターで、まき割りや食事づくり、台所の床そうじをしました。包帯を取り替えたり、難民認定申請書を書く手伝いをしました。私は、北に向かう避難民たちと一緒に生活し、移動しました。そうしながら、彼らがなぜ逃れなければならなかったのか、どこに行きたいのか、途上で何が起きているかを記録しました。

3人の子を持つシングルマザーのミルドレッドさんは、保護料として金を払わないと家族を殺すとギャングから脅され、逃れてきました。ホンジュラスの自宅で殺し屋に家族を殺されそうになった6人兄弟の長男イヴァンさんは、年老いた母親と2人



の幼い甥を含む家族全員を自力でメキシコに移動させました。

ミルトンさんは長年ニューヨーク市に住んでいましたが、国外退去となる前の2001年9月11日のテロ事件当時、すすだらけになった歩行者たちを自分のアパートに避難させ、世話をしました。

私はここで、恐ろしい事実を知りました。政府によるこの計画は、メキシコの国境を強化する代わりに、従来の移住ルートを使えなくしてしまったのです。そのルートは危険でしたが、秩序があり、見晴らすことができました。

避難民たちは、列車のどのあたりにギャングがいるかを把握していました。5ドル～20ドルの保護料を払う覚悟もあり、安全のために団体で移動しました。近くにはシェルターや赤十字、警察署さえもあり、助けを求めることができました。

しかし、南の国境計画でそれが一変。入国管理官に見つからないように、避難民たちはジャングルの奥深くを何日も歩かねばなりません。避難民たちから金を奪っていたギャングは、ジャングルまでついてきて金を奪い、拉致し、殺すこともあります。

南の国境計画は、開発の取り組みとしては失敗でした。避難民の厳重な取り締まりは、メキシコ南部の治安を悪くしただけでなく、暴力の増加により、この地方が切実に必要とする設備投資を阻害する結果となりました。

ロータリーの奨学生として、開発を別の視点で見ることを学びました。国際支援とは貧困をなくすことだと、多くの人は考えています。貧困の削減を、お金がいくら使われ、収入があったかで測ります。一方、開発人類学では、国際支援を別の方法で分析します。私たちは、地域のニーズは何か、そのニーズは持続可能で、最終的に自立し継続可能かを判断するために、取り組みの現地での状況を深く観察します。

私が避難民シェルターにいた時、善意のある団体から、膨大な量の衣類がよく送られてきました。もし事前に聞かれたら、衣類を送るだけのお金と努力は無駄だと答えたでしょう。実際のところ、シェルターのスペースが足りないため、何百ポンドもある重い衣類を、責任者がお金を払って廃棄しているのが現実です。

シェルターが実際に必要としているのは、きれいな水であり、より良い配管や医療でした。物資をまとめて送るのではなく、インフラが必要なのです。浄水施設、機能するトイレ、病院への移動手段、そして、これらを自力で維持するための知識とスキルが必要です。

もちろん、シェルター責任者の一人が言ったように、「究極の目標は、そのようなインフラを必要としないこと。難民危機や暴力の問題を解決し、自分の家に帰れるようにすること」です。

ロータリーの6つの重点分野は、これらの目標とほぼ重なっています。そうするには、お金が必要ですが、それよりも、彼らが継続して自立できるようにするには、異なる文化間の密な協力が必要となります。ビジネスと地域社会のリーダーの世界的なネットワークを持ち、このような問題を理解した上で効果的に対応できる団体が、ロータリーのほかにあるでしょうか。

対応策の一つとして、ロータリーは、6つの重点分野におけ

る大学院レベルの学生に奨学金を提供しています。

私の友人ジャスティン・ヘンドリックスさんは、グローバル補助金によってサセックス大学で開発人類学を研究した後、ルーマニアの孤児院で数年働き、教育支援を行いました。別の友人、エミリー・ウィリアムズさんは、グローバル補助金によってマドリードのカルロス3世大学パートロメ・デ・ラス・カサス人権研究所で修士号を取得し、現在は米国で、保護者のいない中米の未成年者と人身売買の被害者のために働いています。私のパートナーであるアトレイ・ウェバーさんは、グローバル補助金によってロンドンのSOAS大学（東洋とアフリカ研究所）で難民と開発について研究しました。彼女は今、難民・移民に関する米国委員会のプログラム責任者として勤務しています。

最大限の効果をもたらすには異文化から学ばなければならないことを、ロータリアンは理解しています。グローバル補助金の奨学生である私たちが、留学中、そして留学後に目指すのは、まさにこのことです。

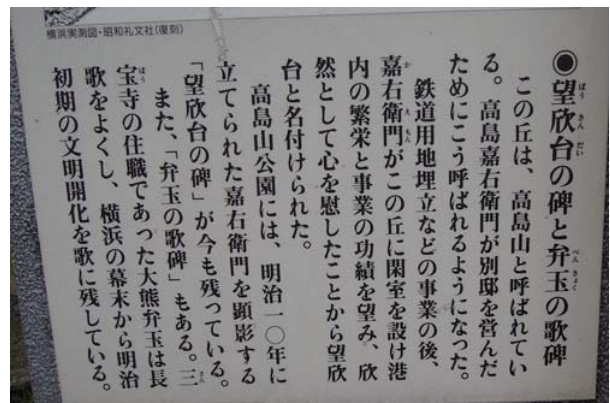
ロータリーニュース

## 我が街「神奈川」散策（第23回）

クラブ会報委員会

### ■三宝寺

本覚寺の先に三宝寺があります。三宝寺では、嘉永四年（1851年）に住職になった、第二一世住職、弁玉（べんぎょく）和尚が有名です。弁玉和尚は、和歌の長歌を橘守部に、短歌は岡部東平に学んだ、江戸末期から明治初期にかけて活躍した歌人です。



### 次回〈3月2日〉の予定

テーマ 「スリランカの水処事情」

（株）オスモ 代表取締役 野口 武志 様

（紹介者 矢野 修二 会員）